

三代続「名城食堂」



天白キャンパス共通講義棟北地下1階に位置する「名城食堂」。中村区新富町(現在の附属高校の場所)に校舎があったときから店を構え、以来60年以上、場所を中村区から天白キャンパスへと移し、家族三代にわたって名城大学の学食を営んでいます。

ここ名城食堂の看板娘は、今年93歳を迎える墨千鶴子さん。優しい笑顔で学生たちを出迎えてくれます。「学食のおばちゃん」として、長年多くの名城生と関わってきた千鶴子さんのファンは多く、千鶴子さんに会うために名城食堂を訪れる卒業生も少なくないそう。最近では、体調と相談しながらの出勤となっていますが、食堂に出て学生と触れ合う時間が元気の源だと話してくれました。

名城食堂という名前から、大学が運営している学食だと思われがちが少なくないものの、実は創業時からずっと

と、独立した企業として経営しています。学食に求められる「リーズナブルでおいしい食事」を実現するため、さまざまな企業努力を行っている名城食堂。食事情の移り変わりや若者の生活スタイルの変化に合わせて、メニュー開発や提供スタイルの改良を重ねています。昨今は原材料や資材価格の高騰などもあり、価格を据え置き続けることは容易ではありませんが、学生の健康を支える存在として、できるだけ頑張りたいと話す墨さん一家。名城食堂は、平日は朝から夜まで営業し、土曜日もランチタイムに営業している

ので、使い勝手も抜群です。名城食堂をはじめ、名城大学内の学食は、卒業生や一般の方も利用可能。久しぶりに仲間を誘って、懐かしの味と顔に会いにきてみませんか？

photo

A. 昨年登場した新メニュー「タコライス」(360円)。たっぷりの野菜が食べられるので、特に女子のリピーターが多い。B. ボリュームのある定食メニューは、運動部員にもオススメ。中でも人気があるのは、名古屋メシの代表格でもある「味噌カツ定食」(430円)。ごはん、味噌汁付きで、ごはんは無料で大盛りにできる。C. 全300席の明るい店内。D. 千鶴子さんのご主人が名城大学内に食堂を構えた当時は、うどんやそばなど麺メニューが中心だった。当時の価格は、うどん1杯15円ほど。現在、経営を担うのは千鶴子さんの孫にあたる墨義和さん。千鶴子さんも、体調が許す限り食堂に出ている。

名城食堂

営業時間：月曜～金曜 9:00～20:00 土曜 10:00～14:00 日曜定休
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地 天白キャンパス共通講義棟北地下1階